

健診結果のみかた

血液検査

血液学検査	白血球	白血球は、細菌やウイルスから体を防御する働きをしており、炎症や感染症の状態の指標です。
	赤血球 血色素 ヘマトクリット	赤血球には、体の組織に酸素を運ぶ作用があり、赤血球に含まれる血色素がその役割をしています。ヘマトクリットとは、血液全体に占める赤血球の割合です。これらが低い場合は、貧血、高い場合は多血症などが疑われます。
	血小板	血小板は、出血した時に血を止める働きをしています。血小板が減少したり、機能が低下すると出血しやすくなったり、止血しにくくなります。
肝機能検査	AST(GOT)	心臓・肝臓・骨格筋に多く含まれている酵素。これらの臓器に異常があると増加します。
	ALT(GPT)	肝臓に一番多く存在する酵素。肝細胞に変化や炎症がおこると上昇します。
	γ-GT(γ-GTP)	ASTやALTと同じく酵素の一種。アルコール性肝障害や脂肪肝の指標となります。
	ALP	肝臓・骨・腸・腎臓など、さまざまな臓器に含まれる酵素。数値が高いと胆道系の病気のほか、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、骨の病気などが疑われます。
	LDH	体内で糖質がエネルギーに変わる時に働く酵素の一種で全身の細胞に含まれています。肝臓病、心臓病、血液疾患などで増加します。
	総ビリルビン 直接ビリルビン	ビリルビンは、赤血球中のヘモグロビンの分解産物。最初に「間接ビリルビン」となり、肝臓で「直接ビリルビン」に代わり、胆汁として排泄されます。「間接ビリルビン」と「直接ビリルビン」をあわせて、「総ビリルビン」と呼称。「総ビリルビン」が高い場合は、肝胆道系疾患、溶血性貧血、体質性黄疸などが疑われ、「直接ビリルビン」が高い場合は、胆道閉塞や肝臓疾患による黄疸などが疑われます。
蛋白代謝検査	総蛋白 A/G 比	総蛋白は、血清に含まれる蛋白質の総量です。肝硬変、ネフローゼ症候群などで低下します。血清の蛋白質は、半分以上を占めるアルブミン(A)と、体の免疫や防御をつかさどるグロブリン(G)に分けられます。
	尿素窒素 クレアチニン	腎機能を調べる検査。数値が高いと、腎機能の低下が疑われます。尿素窒素は、蛋白質の摂り過ぎや脱水などでも高くなる場合があります。
	尿酸	高値が続くと、痛風や腎結石が起こり易くなります。尿酸値は、プリン体を多く含む食品(肉類、特に臓もつ、貝類等)や過度の飲酒のほか、激しい運動、ストレスで上昇します。
脂質検査	コレステロール	コレステロールは、全身の細胞膜、副腎皮質ホルモン、胆汁酸等の原料となるものです。食品からも取り入れられますが、体内でも作られます。 LDL(悪玉)コレステロール:多すぎると血管壁に沈着して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性が高まります。HDL(善玉)コレステロール:動脈硬化を防ぐ働きがあります。喫煙、運動不足、肥満等で減少します。 Non-HDLコレステロール:総コレステロールからHDLコレステロールを引いた値。動脈硬化の指標です。 sd-LDLコレステロール:動脈硬化を促す作用が非常に強く、超悪玉コレステロールとも呼ばれます。
	中性脂肪	高すぎるとコレステロールと同じく動脈硬化の原因になります。糖質(穀類・砂糖・果物・酒等)や油ものを摂り過ぎると、肝臓で中性脂肪に作り変えられ、皮下脂肪として貯えられ、肥満の原因にもなります。
糖代謝	空腹時血糖	血糖値は、膵臓から出るインスリンというホルモンの働きで一定の濃度に保たれていますが、糖尿病になると血糖値が上昇します。高値の場合は糖尿病が疑われます。
	ヘモグロビンA1c	過去1~2ヶ月の血糖値を反映する検査。高値の場合は、糖尿病が疑われます。
	Na・K・Cl・Ca	電解質。脱水や腎機能障害など体液バランスの異常で変動します。
	HBs抗原	B型肝炎ウイルスに感染しているかを調べる検査。
	HBs抗体	B型肝炎ウイルスの免疫をすでに獲得しているかを調べる検査。過去にB型肝炎ウイルスに感染したり、ワクチン接種により抗体を獲得した場合に、陽性となります。
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスの過去の感染、もしくは現在感染しているかを調べる検査。
	CRP	炎症の有無や程度の指標となります。高い場合は、細菌・ウイルス感染、炎症性疾患、がん等が疑われます。
	RF	膠原病、特に関節リウマチの時に、高値となります。しかし、健康な人でも高値を示す事があります。
腫瘍マーカー	AFP	肝細胞がんの診断に有用。肝硬変等でも上昇することがあります。
	CEA	消化器がん、特に大腸がんなどで異常高値を示すことがあり、また胃・膵臓・肺・胆嚢・胆管・乳がんでも上昇することがあります。
	CA19-9	消化器系のがん、特に膵臓・胆嚢・胆管がんなどで高値を示すことがあり、また胃・大腸がんでも上昇することがあります。
	CA125	上皮性卵巣がんのほか、卵巣嚢腫や子宮内膜症でも高値を示すことがあります。
	PSA	前立腺がんや前立腺肥大などの前立腺の疾患がある時に高値を示します。
	シフラ	肺がんなどで高値を示します。また、卵巣がん、乳がんでも上昇することがあります。